



## 「中 毒」



大分東医師会 三好 和

安心院の村上医院の村上直彦先生のご指名でリレー随筆のバトンを受け取りました三好和と申します。大分市馬場で眼科医をしています。

村上先生とは親類関係にあり、私の従姉の息子さんになりますが、私より年上です（私の父が十三人兄弟で、末っ子のため）。村上先生には私の開業当初よりお世話になっており、また、何度か宇佐で行われる研究会等の講師として呼んでいただいております。今回のリレー随筆の依頼も、二つ返事で引き受けてしまいました。文章を書くことが苦手な私は後悔することとなりました。原稿の締め切りが迫って来ているのに、新年会・研究会・ゴルフ・医師会の理事会・家族サービス・定例外手術等の予定が次々として入って、原稿を考え書く時間がなかなか取れず、私の最も楽しみにしているパチンコの時間を削るしかない判断。本来パチンコに行く予定の時間に原稿を書いているところです。パチンコのことが頭から離れず、何かそわそわして、なぜか花の慶次の「漢花」の曲が私の耳に。筆が進みません・・・中毒でしょうか。学生の頃から、暇な時は4人集まれば雀荘、集まらなければパチンコ店に行っていました。麻雀は人に気を使うことが多く、終了時間も読めません。パチンコであれば、パチンコ台相手なので、気疲れなく午後11時前には閉店するため、次の日にあまり影響しません。医者になっても、気分転換・ストレス解消？と考え習慣となってしまいました。

学生時代は「ビッグシューター」「スーパーコンビ」「バレリーナ」などよく打っていました。パチスロでは「北斗の拳」「吉宗」「トロピカーナ」が好きでした。最近のパチンコではやはり「花の慶次」「GARO」「ルパン三世」「北斗無双」でしょうか。台も進化しています。以前は大当たり時の光や音の演出が主でありましたが、現在はそれだけではなくハンドルやレバーやボタンや引き金などにバイブ機能があり、振動が大当たりを予感させる演出、台の中央部・上方部にGAROの頭や眩しく輝くライトが突然出現する演出などあり、大当たりの瞬間は快感です。やめられません。やはり中毒です。パチンコ屋の思うツボです。こんな私ですが、診療はできるだけ真摯に取り組んでいるつもりです。診療を行っていて、治療の経過が良い患者さんの嬉しそうな顔を見れたり、感謝の言葉を頂くのは快感です。多くの快感を得るために、進化した医療の提供もやめられません。これも中毒でしょうか？

## 乳鉢



## 「開業医になって」

宇佐市医師会 村上直彦

12月のある平日の午後、時枝内科医院の時枝正史先生から電話があり「大分県医師会会報のリレー随筆をお願いできませんか」とのこと。11月からインフルエンザが大流行しており極度に疲労困憊していた。素直にお受けしたはいいが後日一体何を書けばいいのか見当がつかず。そもそも大分県医師会会報とは記憶する限りご縁がなく自分と直接関係があった記事は大伯父様の三好順先生と父の訃報くらいである。勿論投稿など一度もない。

安心院に生まれ育った。医師となり安心院に帰ってきた。平成14年のことである。平成17年に両親から医院継承した。あれからはや11年の歳月が流れた。開業してみると診療は内科だけでなく外科、小児科、産婦人科、皮膚科、眼科、泌尿器科等々ほぼ全科にわたる知識と経験が必要であることを痛感した。大学病院では内科に在籍していたが当時は専門医全盛時代であり必然的に専門医資格を取得した。その間多くの先生方にお世話になった。しかし開業医になるとその知識と経験だけでは到底及ばない。嗄声の主訴で見つかった胸部大動脈瘤、徐脈が主訴で見つかったジギタリス中毒、偶発的に脳動脈瘤が見つかり直後に破裂したこと、足底の違和感が主訴で見つかったサルコイドーシス、上肢の脱力感で見つかった甲状腺機能低下症、右肋間痛が主訴で虫垂炎とわかったこと等々。さらにはまさに風土病的なまむし咬傷、ツツガムシ病である。父から度々叱責された。ふり返ればそれらがいまの自分の糧となっていることは間違いない。

自分もいつの間にか50を過ぎた。父も他界し母も引退した。患者さんは十人十色である。ひとりひとりこつこつ診ていくしかない。超高齢化の波は押し寄せている。あと10年20年したらこの町はどうなっているのだろうか。何とも診療に余裕がない追われる日々である。週末はちょっとお酒を飲みながら好きな落語やピアノの音楽を聴いてリラックスしたい。ウォーキングで体力増進したい。昔やった手話もまた始めたい。子供に感化され英検や漢検にも挑戦してみたい。自分にしてはかなり欲張りである。そんなことも思いながら毎日診療している。

リレー  
乳鉢

## ウクレレ・アンサンブル

宇佐市医師会 時枝正史

ハワイが好きで学生時代からよく訪れていた。春休みに12泊しゴルフ12ラウンドしたこともある。ハワイはそのほかにもいろんな楽しみ方があるが、何度行ってもまた行きたくなる。ワイキキ周辺にはウクレレショップがけっこうあり、街角で手軽にウクレレを弾いている人もいて、楽しそうなので数度目の『渡ハ』（ハワイフリークの人々はハワイ旅行することをこう呼びます）の際1本のウクレレを買って帰った。誰に習うこともなく、誰に聴いてもらうわけでもなく、自分の部屋でひっそりと弾いていた。子供たちの誕生日に「ハッピーバースデートゥユー」を弾いても喜んでくれない。何年か経ち、とある飲み会の席でウクレレの話をしたとき、ずっと音楽をやっている人から「一緒にやりましょうよ」と誘われた。最初は一緒にウクレレをとということだったが、いつの間にかバンドを組む話になった。ギター、ベース、キーボード、ドラムスにウクレレと本格的なアンサンブルである。楽曲のレパートリーは、主旋律をウクレレで奏でるインストルメンタルや僕らが青春時代によく聴いていた洋楽や日本のポップスが中心。ウクレレ弾き語りではIZというハワイのミュージシャンが歌う「オーバーザレインボー」という曲をテーマ曲としてやっていたが、これがバンドでやるとなかなかフィットしない。なのでバンド名を「アンダーザレインボー」とした。練習、そしてライブ。生まれてこの方音楽などやったことがない。音楽理論などまったく知らない。バンドメンバーにいろいろ教えてもらいながらやり始めた。いやあ、楽しい。初めてのことを体験し、できるようになる楽しさ。

大学の頃から30年余りゴルフをやってきたが、ゴルフにはもう伸びしろがない。というよりもやればやるほどヘタになっていく気がする。下り坂の人生を歩いていくというのはこういうことなのか。それを逆に上ろうと努力する人は素晴らしいなと思う。別に今もやめたわけではないが、100や90を切る切らない位の頃は楽しかったなあ。ゴルフは対戦相手のミスをこっそり喜ぶところがあったりするが（いやいやジェントルマンのスポーツなのでそんなことを考えてはいけません）、音楽はやる方も聴く方もみんなで楽しめるのがいい。どんな分野でもレベルアップするにつれ壁もだんだん高くなっていくのが常なので、どこまで行けるかわからないが、この先もまだまだ楽しみである。しかし運動不足の習慣がついてしまった点が、いささか気になることではある。

リレー  
乳鉢

## 「最近の楽しみ」

宇佐市医師会 石田修二

郷里に戻って開業し、早いものであっという間に15年目となりました。医師会に所属し、日々の診療を行っている中、それなりに色々なことを頼まれるようになります。医師会の理事・市民健康教室の講演・研究会の座長・製薬会社の社内研修の講演・仲間内での勉強会の講演・新薬の特定使用成績調査等々。苦勞して終わるたび度に、次は絶対に断ろうと思うのに、いつの間にかまた仕事がたまっているということを繰り返しています。

文章を書くことが最も苦手なもので、それだけは勘弁してくださいと常に断り続けて来ましたが、今回このコーナーを担当することになってしまいました。先月の担当の臼杵市医師会の藤野先生は、大学院時代からの恩師であり、現在も公私共にお付き合いさせていただいています。その藤野先生から、「僕の次は修ちゃんにしといたから！」と言われ、（うん、しといたから？）当然断れるはずもなく、苦手な文章書きに、四苦八苦しています。

開業10年目を過ぎた頃から、『仕事は目一杯頑張る、でもプライベートはストレスなく、趣味などで楽しい時間を過ごしたい』と思うようになりました。もともと身体を動かすことは嫌いではないので、自宅の庭にネットを設置し、日中はゴルフの練習ができるようにしています（実際はそれほど練習してない）。長年のスランプで（本当はこれが実力）、一向にスコアはよくなりませんが、ありがたいことに藤野先生をはじめ、ご一緒していただける同伴競技者に恵まれ、ストレスなく楽しくラウンドすることができています。夜間は、防音設備を施した自室にこもって、音楽や映画を大音量で楽しんでいます。義父の勧めもあり、自宅を建てる際にオーディオ店の方に参加してもらい、120インチのスクリーンを設置しました。そこに映画やスポーツをプロジェクターで映し出すのは圧巻です。音響機器にはそれ程こだわっていませんでしたが、オーディオ店の罠(?)にまんまとはまってしまい、ハイエンド機器のいい音を視聴させようと、いつの間にか機器のアップグレードを行っています。つい最近もアキュフェーズの新しいCDプレイヤーに買換えましたが、そのシリアルナンバーが3番だったので、すごく得た感じがして1人悦に入っています。3番は市場に出る一番目になるそうです（1・2番はメーカーが自社で保存）。

ゴルフも音楽・映像も、どうやら準備したり設備をそろえたりが一番楽しいようです。

リレー  
乳鉢

## 糖尿病と認知症と石仏ねっと

白杵市医師会 藤野孝雄

この10年間を振り返ってみると様々なことがあった。中でも糖尿病と認知症については、専門ではないにも拘わらず深く関わるようになった。

思い返せば20数年前に継承開業で白杵に戻ってきた時、田舎にいても患者さんにとっていい医療をしたいと考えた。当時糖尿病の患者さんが増加し始めており、またコスモス病院に常勤の先生方も増えたこともあり、糖尿病の勉強会をしようと考え常勤医を含めてかかりつけ医と共に自主的な研修会を始めた。この会もその後医師のみならずコメディカルも巻き込んで平成27年には100回を達成した。また市や県などの行政とも共同で、糖尿病の発症予防や重症化予防を行うまでに発展しており感慨深いものがある。

次に深く関わったのが認知症である。きっかけは平成18年に大分大学神経内科の木村成志先生の認知症の講演会であった。外来では認知症の患者さんが増え始め、服薬を忘れる、食事・運動療法ができないなどのため血圧や血糖コントロールが不良になり治療に難渋することが多かった。そこで木村先生に対して、白杵で早期発見・予防を中心とした認知症対策を行いたいとの私の考えを伝えた。彼も私と同じ意見で、すぐにかかりつけ医を対象とした認知症勉強会が始まった。その後この取り組みは医師のみならず、看護、介護など多職種と合同で行うようになり、また白杵市との連携も開始し医師会、大学および行政が協同で認知症に関する様々な活動を行ってきた。さらに現在は科学的根拠のしっかりした認知症予防法の確立を目指して、リストバンド型生体センサーを用いた臨床研究（AD発症リスクの解明を目指した白杵市研究）が進行中である。

厚労省は糖尿病および認知症重症化予防に力を入れている。現在白杵で行っていることは、偶然ではあるがこの厚労省の施策に沿ったものとなっている。また白杵市では市内の医療・看護・福祉をはじめとして、歯科、調剤薬局も参加した、ICTを利用したネットワークである石仏ねっとが稼働している。このネットワークを利用した糖尿病腎症重症化予防は着実に成果が出ている。認知症に関してもケアマネを中心とした連携の電子化が運用に乗りつつある。

これらの活動によって糖尿病と認知症の、重症化を含む予防効果の成果が表れ、白杵市が安心して住みやすい町になることを期待している。



リレー  
乳鉢

## 紙メディアがない時代

白杵市医師会 王 岩

先日、楽天雑誌の話を知りました。月380円で多くの雑誌がアプリで読み放題できるそうで、かなりお得です。自分も試してみようと思いましたが、「あ！紙メディアは消えています」と感じて、ちょっと複雑な気持ちになってしまいました。

大学三年生のとき（1997年）、読みたい文献がありまして、大学にはなかったもので調べたところ、ちょうど中国国内になかった雑誌でした。その時、出身の大学にインターネットが導入されていなかったもので、アメリカから取り寄せをしなければなりませんでした。早めに読みたくてファックスを希望しましたが、その費用は自分の1週間の生活費であったため、仕方なくやめました。結局、文献を読んだのは2ヶ月後だったのです。大学の後半、インターネットの導入に伴って、PUBMEDで簡単に文献を調べられるようになりました。その時、電子メディアの便利さを初めて体験しました。

大学四年目から、留学を決心しました。先輩たちに「書類の準備と郵送は時間がかかります、やり取りを早めに」と言われましたが、授業や実習で忙しくてなかなか始められないままに卒業しました。そしてE-mailで留学の連絡を試しました。最初は形があるものを送らずに連絡するのは信用してもらえるか心配していましたが、意外とうまくやり取りが出来て、スムーズに留学してきました。

昨年、父にタブレットの電子ブックを勧めました。字を自由に拡大する機能があり、老眼に優しいですから。しかし父はなかなか慣れません。「本は紙の形でないと面白くないよ」と言われました。

実は、一昨年から医学の電子ブックを何十冊か買いました。買ったときは真剣に読もうと思いましたが、その後何冊かは辞書のように使っていますが、残りはほとんど放置しています。やっぱり自分もある程度に形がない本じゃだめなんではないでしょうか。

2200年前には竹簡の本しかなかったのですが、いま竹簡は博物館にしかないです。100年後、紙メディアも同じですか？紙と同じ、中国出身の私はちょっと悲しい気持ちになりました。でも森林採伐を減らせ、環境にやさしいと考えると悪くないでしょう。時代が変わりましたね。紙メディアがない時代、そのうち慣れるのでしょうか。



## 佐伯でのフットサル

佐伯市医師会 小寺 隆元

自分は中学から大学までサッカーをしていました。大学時代は講義をさぼることはしょっちゅうありましたが、部活は先輩方が厳しく、ほとんど参加していました。今、振り返ってみると大学自体にはあまり愛着はありませんが、医学部サッカー部にはとても愛着があります。その中でも大学4年生の時に西医体で優勝できたことが一番の思い出です。卒業後は医師不足の問題もあり、6年目で佐伯に戻り、働くようになり、もう10年を越えました。数年前より南海医療センターの卯野先生に声をかけてもらい、南海医療センターのフットサルチームに入れてもらい、月3～4回、仕事よりも優先して、参加し、体を動かすことでストレス発散しています。大分市などの場合は人工芝を使用した専用フットサル場があるのですが、佐伯の場合は佐伯総合運動公園の体育館でフットサルをしているため、これまでサッカーをしている時はあまり大きなケガはしませんでした。足関節捻挫や膝を痛めたりとケガが多くなっています。できれば、大きなケガをせずに49歳で現役Jリーガーとして活躍するキングカズ選手のように長く、プレーできるといいなと思っています。フットサルは夜8時から10時でやっているのですが、それが終わると気が合う仲間と飲みに行くのですが、その中で一番よく行くのが佐伯のうまいもん通りの入口(出口?)付近にある居酒屋「ひかる」です。このお店は新鮮な魚介類を主に扱っているのですが、良心的な値段で美味しくて量も多く、おそらく佐伯1, 2を争う人気店で夜7～8時位の時間帯は少し前に予約しようと思っても、満席で入れないこともあります。フットサルが終わった10時過ぎだと予約なしでほとんど入れます。刺身の盛り合わせやあら煮などを食べながら、飲むお酒は格別においしく感じます。あかにし貝のバター焼きはあわびのバター焼きに似ていて、安くておいしいのでお勧めです。12時前まではお店が開いていますので、佐伯に来られた際は、少し遅めの時間に居酒屋「ひかる」をのぞいてみてはいかがでしょうか。

リレー  
誌

## “私の気分転換”



佐伯市医師会 森本章生

独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）南海医療センターの森本章生です。医者になって30年、佐伯に住んで20年が経ち、すっかり佐伯の住人になっています。最近病院の母体が変わり、色々な面でしっくりきていないというのが現状です。

さてストレスの多い仕事の中、何か気分転換できる趣味を持とうと思い、始めたのが釣りです。佐伯・蒲江は全国的にも釣りで有名なところで、“釣りバカ日誌”という有名な映画の舞台にもなったくらいであり、釣り場には困らないというのが釣りを始めた一つの理由です。子供の頃は親に連れられ、港の岸壁でサビキという針が数本付いた仕掛けで、ゼンゴというアジの小さいやつを釣ったことがありますが、佐伯に来て大学の同級生が同じ病院で働いており本格的な釣りをしていたので自分も始めようと思い、同行して仕掛けの作り方や餌の調達法など教えてもらい、わりとスムーズに始められたのも続けられている一つの理由かもしれません。その同行している時に釣ったのが56cmのチヌ(クロダイ)で、とても引きが強くその時に味わった手応えが忘れられず、またその感覚を味わいたいがため続けているというのが正直なところですが。普段の釣り場はというと、蒲江畑野浦の知り合いの釣り筏で私専用となっているところですが。海岸沿いの道から15mくらい海に突き出しており水深は10mくらい、まだ暗い早朝に出かけ、“朝まずめ”と言われる大物が釣れる時間帯を狙って始めます。釣果はというと、薄明るくなるくらいに1時間ほどまずアジが釣れ、運が良ければ30cm台のものも時々釣れます。その時間帯が終わると、たまにですが50cm前後の真鯛が釣れるのでいつもそれを期待して餌がなくなるまで粘っています。ここで釣れた真鯛の一番の大物は78cm(6.8kg)もあり、釣竿が折れてしまうのではというほど曲がり、今でもその時の興奮を思い出します。ウキがピクッピクッと沈むと、どのタイミングで合わせようかとか、どんな大物が餌をつついていんだろうかとか、ワクワクしながら楽しんでます。当院にローテーションで来られた若い先生で釣りをしてみたいという方は連れて行くのですが、ほとんどの方が私と同じように釣りにはまってしまいます。この時期になると朝とはいえとても暑いので、熱中症に気をつけながら、また自分の年齢・体力と相談しながら楽しみを続けていこうと考えています。



# 乳鉢

## 李下に冠を正さず



大分郡市医師会 勝田 猛

熊本大分地震後丁度今2ヵ月経過し、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

深刻な世情が続く昨今ですが、一方で皆様ご承知の様に大分県では医者への性的不祥事、いわゆるセクハラが世間を賑わせています。スキンシップとボディタッチを取り違える、相手を鼓舞するつもりがつい逸脱、少しでも紛らわしいことをすれば性的嫌がらせと取られかねない世知辛い時代になったようです。

私は鶴崎中学の学校医を15年来仰せつかっていますが、先日検診の際ふとした身体接触（側弯検診でウエストライン比較の際よく判らなかつた為ウエストを押さえてしまった）で、ある女子生徒さんからなんと「くそジジイ！」と罵声を浴びせられたのです。幸い女性養護教諭がそばにおられ問題にはなりませんでしたがショックでした。以後は極力手が女生徒さんの体に触れないよう、恐る恐るの検診です。疲労困憊でした。この事なども少し間違えれば新聞沙汰に発展しかねない事例でしょう。“学校医、女子生徒にセクハラか！”という新聞タイトルが脳裏をよぎったものです。先日「埼玉の小中学校で校医16人中10人が一斉に辞任」というニュースがありましたが、それも宣なるかな…と辞任した先生方への同情を禁じ得ません。

また、私のクリニックでは、前日の反省やその日の検査の注意点を申し送る短時間のミーティングを始業前に行っていますが、ムードはどうしても沈滞気味。そんな時、1日を明るく気分良くスタートして貰いたいという院長としての一心から、私はつい拙いジョークを言ってしまう。「今日はみんな化粧のノリがいいね」「若い子の入れるお茶は美味しいな」「うちは美女ぞろいで嬉しいよ」これらも、もはや全て不可と知りました。宴席での裸芸（昔よくやってた）など今は昔…。もう何も言えない！何も出来ない！李下に冠を正さずとはよく言われますが、紛らわしいことは何も言えず、かくして毎朝ごく形式的なミーティングとなっています。何か打開策は無いものかと頭を痛めております。

人の口に戸は立てられません。例え漫然と景色を眺めていても、視線の先に女性物の下着が干されていたら、廻りの人から「好色院長！」と言われるかも。日々の言動にはくれぐれも注意したいとの思いを強くした今日この頃でした。

今回は南海医療センターの森本章生先生に格調高い随想をお願いしております。

## 乳鉢



## 伊勢志摩の旅

大分市医師会 垣 迫 健 二

今年の主要国首脳会議「伊勢志摩サミット」は5月26、27日に志摩市賢島にて開催されます、  
というかこの原稿が掲載されるころにはもう無事に終了していることと思います。

昨年5月、かねて興味のあった伊勢・鳥羽へ家内と1泊旅行してきました。伊勢神宮は宇佐神宮と似ているためかさほど感動がなかったのですが、卒後4年目の学会以来25年振りの鳥羽はすべてが印象的でした。海岸線の風景もさることながらやはりここは食材の宝庫。ホテルのレストランで夕食に出された伊勢えびをはじめ鮑ステーキは格別のおいしさでしたし、翌日の朝食では伊勢海老のビスクスープとお好みの具（あさり佃煮がお気に入り）を載せて握ってもらうおにぎりが絶品でした。真珠島での海女さんショーを眼に焼き付けたあと、鳥羽駅で少し時間があつたので立ち寄った焼き貝店、ここがまた最高でした。駅の高架下に数件の店が並んでいるのですが、呼び込まれるままに入ったおばちゃん2人で切り盛りしている小さな店でちゃちゃっと手際よく焼いてもらった貝（はまぐり、大あさり、牡蠣）は、添えられたレモンを絞りかけるとこれがすこぶる美味。続いてあわび刺しで日本酒をグビッといきたかったのですが、電車の時間が迫っていたため後ろ髪を引かれる思いで、また来ます！とおばちゃんに元気よく別れを告げ鳥羽を後にしたのでした。

それ以来伊勢志摩（志摩は未ですが）ファンとなった私に今年もチャンスが巡ってきました。4月の大阪学会を足掛かりに、先進国の首脳陣よりひと足お先に伊勢志摩を再訪できそうです。今度は近鉄特急「しまかぜ」を利用して未体験の志摩へ足を延ばそう。警備上の理由からか志摩観光ホテルでのお昼の海鮮カレーが実現できないのは残念だけど、代わりにちょっとリッチな温泉旅館に泊まろう。帰路にはもちろん鳥羽のおばちゃんの店でゆっくり貝焼きやあわび刺しを楽しもう、という旅行計画を半年前からインターネットを駆使して練り上げました。人気の宿を押さえ、しまかぜのネット予約はかなり苦労しましたが展望車両をゲットできました。

いよいよ出発前夜。明朝のJR始発乗車に備え早々に床に就きましたが、なぜか寝付けませんでした。4月16日午前1時25分、携帯電話のけたたましい警報音がマグニチュード7.3大分市で震度6弱の熊本大分地震が起きたことを告げました。余震の続く中、翌朝JRは運休となり私の半年がかりの計画はあつけなく崩れ去ってしまいました。

被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。一刻も早い地震の収束と災害からの復旧、復興を願ってやみません。

リレー  
乳鉢

## 外科医の寿命は？

別府市医師会 甲斐哲司

3月のとある飲み会でのこと。酔いが回っていた私に山口公雄先生から「次回リレー随筆を書いてくれませんか？」と言われました。深慮不可能な私は「前に勤務医リレー日誌書いたけどいいの？」と答えつつも御依頼をお受けしました。この1ヶ月間、軽率な判断を悔いしましたが、引受けたからには何か書かなければと思ひ筆を進めています。2014年9月号に「最近の興味は」と題して、スポーツジムで定期的に運動し自転車を購入して走っていることやゴルフレッスンについて書きました。その後、職場も生活環境も特に変化無く生きてきた私に、随筆に書くような話題がすぐに思いつくはずもなく大変苦悩いたしました。「外科医の寿命は？」は、あくまでも私個人の私見であることをお断りしておきます。私は30年間外科医をしています。55歳となりメスを置くのはどのような状況になったらだろう？とふと思うことが多くなりました。きっかけは老眼の進行です。縫合する際手元の焦点が合わずにぼやけて見えます。40代半ばから徐々に自覚していましたが1年ほど前からは老眼鏡無しでは縫合が難しい状況になりました。ただこれは老眼鏡の助けがあれば克服されます。何歳になっても老眼鏡の度を調節すれば大丈夫でしょう。次に思うのは体力です。消化器外科疾患の手術は数時間以上の時間を要します。手術に臨む際には、前日深酒しないなど体調を整えておけば、立位の保持は何時間でも容易なことです。日頃から足腰を鍛えていればさらに寿命が延びるでしょう。そう考えると、最も大事な要素は気力です。手術を請け負い元気に退院していただくという責任感を支える気力が重要だと思います。手術のみならず周術期の管理も外科医の仕事です。術後合併症、基礎疾患の管理などの治療が必要な場合が有ります。それらを含めて的確に治療を成し遂げる気力が必要です。黒木記念病院の外科は日頃私一人で診療しています。手術の時は大分大学医学部消化器外科の先生方の応援をいただいています。当院で手術を請け負った患者さんには、私の持つ技量、経験を駆使して元気に退院していただくという思いで治療しています。それを支える気力が持てなくなった時には潔くメスを置くべきかと今は思っています。外科医の皆様のお考えはどうでしょうか？とにかく、私の手術を希望される患者さんがいるかぎり、もうしばらく体力と気力を保てるように日々精進していこうと思っています。

リ  
乳鉢

## 「先生の趣味は何？」

大分郡市医師会 山口 公雄

リレー随筆を読んでいて、多くの先生方が色々な趣味を持っておられるなど感じていた。

今回、原稿を依頼され、何について書こうかと悩んだ。私には趣味と呼べる程のものがない。仕事についても目新しい物はない。今は、周辺に大きな変化もない。こまった。

「先生の趣味は何？」と行きつけの小料理屋の大將から聞かれたのは、私が40代後半の頃だった。特に趣味と呼べる特技はなかった。興味を持つものは多かった。しかし、趣味と呼べる程のものではなく、何をしても中途半端な状態だった。「何か趣味を持たんといけんよ。何かを物にするには10年かかるから、50歳までには探しとかなとね。」という大將の趣味は、俳句。50歳頃に始めて、60歳過ぎには、かなりのものになっていた。若い頃にも同じ様な事を入院患者に言われた事があった。その人の趣味は日本刀の柄の飾りを集めることだった。目貫(めぬぎ)と言うそうだが、退院時、その飾りを幾つか木箱に入れて、私にくれた。その飾りを私も集めようとは思わなかったが、いまだに、捨てられずにとってある。小料理屋の大將に言われた後、何か趣味を見つけようと、色々なものに手を出した。ジムに通ったり、登山道具を買ったり、ギターを買ったり、歌を歌ったり、ビデオ編集を始めた。断捨離がはやった時には、片付けにも手をつけたが、途中で中止。どれも長続きはしなかった。いまだに、趣味と呼べるものがない。そんな中でも、ゴルフが一番近いかな。自信を持って、趣味と呼べる程の思い入れにはまだ達していないが、いい先輩や同級生、後輩に恵まれて、この3年間は、自分なりに一生懸命頑張っている。自分の中では、第3次ゴルフのマイブームと呼んでいる。過去、学生時代と30代の2回、ゴルフに没頭とまではいかないが、時間をかけた時期があった。上手くはならなかった。そんな自分が50代半ばになって、上手くなるとは思えないが、今は、練習をしている。コースにもよく通っている。

また別の人が言った。「自分の趣味は、色々な事をする事。何年も同じ事はできない。3年くらい経ったら、別の事をやる。」これも趣味に対する一つの考え方だろう。私のゴルフも3年経った。しかし、他にやりたい事がまだ、見つからない。もうしばらく、ゴルフに没頭できそうだ。そして、あと数年したら、趣味と呼べる程になっているだろうか？